

複文内のindefinidoとimperfecto：過去の主動詞に従属した関係節における実態とその考察

山村, ひろみ
Kyushu University

<https://hdl.handle.net/2324/1932617>

出版情報：イスパニカ. 39, pp.145-158, 1995-12. Japanese Association of Hispanists
バージョン：
権利関係：



複文内の indefinido と imperfecto

——過去の主動詞に従属した関係節におけるその実態と考察*——

山村ひろみ

0. はじめに

本稿は山村(1994)に引き続き、これまで焦点のあてられることの少なかった過去の主動詞に導かれた従属節に出現する indefinido と imperfecto の実態を検討し、そこから、これら二形式の機能的差異に新たな考察を加えようとするものである。

山村(1994)では、Rojo (1974)で提案された枠組みをもとに、過去の主動詞に従属した名詞節に出現する indefinido と imperfecto の実態が記述・分析され、その結果は次のようにまとめられた。

indefinido: O-V imperfecto: PoV

O は Rojo (1974)の origen を示すが、これは動詞句によって表された事行⁽¹⁾の temporalidad lingüística⁽²⁾を設定する際の起点となるもので、多くの場合発話時点と一致する。他方、imperfecto の項に見られる P は山村(1994)が独自に導入したもので、既定の過去の時点を示したものである⁽³⁾。また、indefinido の項に見られる-Vは、ある事行が別の事行に対して持つ「前時的関係」を、同じく imperfecto に見られるoVはある事行が別の事行に対して持つ「同時的關係」を示したものである。以上のことから、山村(1994)では、indefinido は発話時点より前に生起した事行を表し、imperfecto はある過去の事行と同時的關係を持つ事行を表すと分析されたことが分かる。

本稿は、これらの結果をもとに、過去の主動詞に従属した名詞節において見られた indefinido と imperfecto の機能的差異が同じ環境における関係節においても観察されるのかどうか、もし名詞節と関係節において両形式の機能に違

いが認められるとしたらそれはなぜか、そして、最終的に、当該関係節に出現する両形式の機能の分析結果から、山村(1994)で設定された各形式の機能記述に修正が必要か否かを検討する。

1. 実態調査とその結果

1.1. 資料体と方法

今回、過去の主動詞に従属した関係節に出現する *indefinido* と *imperfecto* の実態を調査するにあたり採用した資料体・方法は山村(1994)で用いたのと同じものである⁴⁾。以下、資料体を挙げる。①雑誌 *Cambio* 16 No. 986, 988～1002 のインタビュー記事 ②小説 Fernando Benzo: *La búsqueda* (Bと略記), Juan Luis Cebrián: *La rusa* (Rと略記), Javier Tomeo: *El mayordomo miope*, Gonzalo Torrente Ballester: *Crónica del rey pasmado*, Manuel Vázquez Montalbán: *Los mares del Sur* (Mと略記) ③新聞 *El país internacional* 30/5/93

また、今回対象とした関係節は、その先行詞が主動詞の直接目的語あるいは主語になっている制限用法のものに限り、それ以外のものは除外した。以上の資料体・方法を用いて抽出されたデータは、後に、主文事行と従属文事行との時間関係に従って分類され、分析が加えられた。

1.2. データ

1.1.で述べた資料体・方法を用いて抽出されたデータの代表例は以下のとおり。これらの例文は、その主動詞および従属動詞の時制形式の種類によって分類された。なお、主動詞は斜体、従属動詞は下線によって示されている。

(1) 主動詞 *indefinido*／従属動詞 *indefinido*

- 1) *Tiró* al cubo de la basura toda la correspondencia comercial que halló en el buzón. (M: 73)
- 2) -(...) *Pedi* cinco millones de pesetas y ellos *enviaron* a una persona que ofreció una cantidad ridícula. (No. 996: 108)
- 3) *Hubo* una temporada en que sospeché que ella tenía a alguien (R: 25)

- 4) La comenté que en un portal vecino *apareció* muerto un obispo que sufrió un colapso cuando hacía el amor con una prostituta. (R: 20)
- 5) El Quisquilla, el chiquitito al que usted rompió el brazo, le *dio* una cuchillada. (M: 208)
- 6) -(...) *Llegó* un momento en que me harté y (...). (No. 986: 39)
- (2) 主動詞 imperfecto／從屬動詞 indefinido
- 7) Le sonaba bien, y le *recordaba* a una chica que conoció en Leningrado, con cara blanca de porcelana en vitrina. (R: 32)
- 8) Pero ya se había acabado la botella y el pintor se *abría* otra que se medió en seguida gracias a la sed de los dos. (M: 37)
- 9) A veces me *pedía* con sus ojos la ternura que me empeñé en negarle durante aquellos días. (R: 78)
- (3) 主動詞 indefinido／從屬動詞 imperfecto
- 10) *Apuntó* en la agenda el día que debía liberar a la malacasada de los brazos del terrorista. (M: 147)
- 11) Se acabó el bacalao al ajo, la tortilla de patatas y cebolla que improvisó Biscuter, y además *exigió* un bocadillo de sardinas en escabeche que Biscuter hacia excelentemente. (M: 216)
- 12) Cuando ya doblaba la esquina, un ganapán que estaba apoyado en el muro de Almudena se le *acercó*. (B: 100)
- (4) 主動詞 imperfecto／從屬動詞 imperfecto
- 13) Casi todas las noches, al hacer su ronda, pasaba por allí, se quedaba un rato, *bebía* la copa de licor que doña Diana le servía con suma reverencia. (B: 104)
- 14) Gritó a la luna más que dijo, mientras *agradecía* el frío que le calmaba el interior del alcohol (...). (M: 109)

1.3. データ分析上の問題点

関係節の主文事行と従属文事行の時間関係を分析するにあたっては、名詞節の場合には観察されなかった種類の問題があったことを指摘しておきたい。例えば、先の例文1)を見られたい。

この例文の従属文事行は主文事行に対して前時的関係を持つと考えられる。しかし、この前時的関係を名詞節の時と同じように従属動詞 *indefinido* に起因するものと即断することは問題である。なぜなら、この例文における主文事行と従属文事行との前後関係は動詞の時制形式とは別に、主文事行と従属文事行の間にある論理関係によって保証されたものと考えられる。すなわち、文中の *tirar* と *hallar* の時間関係 (*hallar* が *tirar* に先行) は当該事行間に設定される論理的時間関係によって予め決まったものであり、それ故、1)における従属文事行の主文事行に対する前時性をただその時制形式 *indefinido* に因るものと分析することは難しいのである。このことから、関係節における時間関係の分析では、当該事行間の論理的時間関係と各事行を表す時制形式によって表される時間関係の区別を、十分考慮に入れなければならないことが分かる。

1.4. 調査結果

抽出されたデータを主文事行に対する従属文事行の時間関係をもとに整理すると表1のようになる。表中の -V, +V, oV の記号はそれぞれ従属文事行が主

表1 関係節における従属文事行の主文事行に対する時間関係

従属動詞の形式	主文事行に対する時間関係	例文番号
indefinido	-V	1), 4), 7)
	+V	2), 5), 8)
	oV	3), 6), 9)
imperfecto	-V	12), 13)
	+V	10)
	oV	11), 14)

文事行に対して持つ「前時的関係」、「後時的関係」、「同時的關係」を示したものである。

2. 關係節における *indefinido* と *imperfecto*

本節では前節の結果をもとに、關係節に出現する *indefinido* と *imperfecto* の機能を名詞節に出現する各形式のそれと比較しながら考察していく。

2.1. 關係節内の *indefinido*

2.1.1. *indefinido* の前時性

表1の例文1), 4), 7)によると、過去の主動詞に従属した關係節に出現する *indefinido* は主文事行に対して前時的關係を持つことができる。これは山村(1994)でも觀察されたことであるが、その時間問題となったのはこの *indefinido* といわゆる「過去の過去」と定義される *pluscuamperfecto* との機能的差異だった。このことに関して、山村(1994)は、当該環境に出現する *indefinido* は *pluscuamperfecto* の代用であるとする Porto Dapena (1989) を叩き台としながら、これら二形式の出現したデータを再検討し次の二点を明らかにした。一つは、両形式は確かに主文事行より前に生起した事行を表すという点では類似性を持つが、その前時的事行の捉え方においては異なっているという点(つまり、*indefinido* はその前時的事行を発話時から捉えているのに対し、*pluscuamperfecto* はそれを主文事行の生起時から捉えている点)であり、いま一つは、*pluscuamperfecto* は、その前時的事行の結果状態をも示すことができるという点である⁽⁵⁾。ここでは、名詞節において觀察されたこれらの現象が關係節においても確認されるかどうかのポイントになってくるが、その検証のために、次のようなインフォーマントテストを実施した。まず、対象となった4名のスペイン人に二つの単文を提示し、それらを關係詞を用いて一文にするように指示する。ただし、当該關係節以外の複文が出来るのを避けるために、想定される複文の前半部分は予め用意し、彼らはただ残りの關係文のところだけを埋めればよいということにしておいた。結果は次のとおりである。

- a) José halló una correspondencia comercial en el buzón.

La tiró al cubo de la basura.

→ José tiró al cubo de la basura una correspondencia comercial que halló
(2)/había hallado (2) en el buzón.

- b) Ese nombre me recordaba a una chica japonesa. La conocí en París.

→ Ese nombre me recordaba a una chica japonesa que conoci (4) en París.
(創作文)⁽⁶⁾

上の結果を見ると、従属文事行が主文事行に対して前時の関係にあっても、*pluscuamperfecto* の使用は必ずしも義務的ではないことが分かる。特に、b)でインフォーマント全員が *indefinido* をそのまま関係節に埋め込んでいる点は重要で、これは名詞節の場合と同様に、従属節中の *indefinido* と *pluscuamperfecto* の間に何らかの機能的差異が存在することを示唆するものと思われる⁽⁷⁾。

2.1.2. *indefinido* の後時性

例文2), 5), 8)の示す *indefinido* の後時性は、名詞節において観察されなかったもので注目に値する。しかし、この後時性はあくまで主文事行に対して設定された時間関係であり *indefinido* によって表された従属文事行そのものは発話時以前に生じたものである。このことは次の例文によってさらに明確になるだろう。

- 15) Para la boda de mi hermana mayor que se celebró hace una semana me *puse* este vestido que tuvo mucho éxito en la fiesta de ayer. (創作文)

2.1.3. *indefinido* の同時性

例文3), 6), 9)において観察された *indefinido* の同時性は山村(1994)において問題となったものである。以下の例文を参照されたい。

- 16) *Vi* que pasaron. (RAE 1973: 519)

- 17) *Vi* que pasaban. (Ibid.)

例文16)の主動詞は知覚動詞なので、その従属文事行は主文事行と同時関係に

あると考えられる。しかし、そうすると、この indefinido と、同じく主文事行との同時的関係を表すとされる imperfecto (例文17) の違いは何かということになる。上記論文はこの問題を indefinido と imperfecto の視点の違いと捉え、前者によって表された従属文事行は発話時以前に生じた出来事の表現となっているのに対し、後者によって表された従属文事行は主文事行を基準としながらそれと同時的関係にある状況の表現となっているとした。今問題となるのはこの名詞節において観察された indefinido の同時性と関係節における indefinido の同時性の間に何らかの類似性があるかどうかである。そこで、次のようなインフォーマントテストを行った。

- c) Y después *llegó* un momento en que me harté (4)/hartaba (0) de oír su misma historia.

このテストの狙いは、当該関係節において indefinido と imperfecto のどちらが選択されるかにあるが、結果的には4名のインフォーマントの全員が indefinido を選択した。もし、当該環境に出現する両形式の示す同時性がまったく同じ性質のものであるならば、この選択にはばらつきが見られてもよいだろう。しかし、全員が indefinido を選んだことからすると、少なくとも indefinido と imperfecto は簡単に交替されるものではないこと、また、それ故、当該環境における indefinido と imperfecto の同時性には違いがあると考えることが可能で、これは名詞節の indefinido と関係節のそれとの類似性を示唆するものと思われる。なお、indefinido の同時性については2.2.3.で再度扱う。

2.2. 関係節内の imperfecto

2.2.1. imperfecto の前時性

例文12)、13)によれば関係節内の imperfecto は主文事行に対して前時的関係を示すことができる。この imperfecto の前時性は名詞節を扱った際にも確認された。以下の例文を参照されたい。

- 18) Pero *dijo* que cuando se llevó a cabo él se encontraba realizando labores de jardinería. (El País)

例文18)の imperfecto によって表された従属文事行は主文事行に先行したものである。しかし、ここで重要なのは、この imperfecto が同じ従属文内の cuando 節によって示された事行と同時的關係にある点である。つまり、imperfecto の第一義的機能は確かにある過去の事行と同時的關係を持つことにあるのだが、その過去の事行は必ずしも主文事行である必要はないのである。この点を踏まえながら先の例文をもう一度見直してみると次のことが分かる。例文12), 13)ともに主文事行に対して前時的關係を持つてはいるが、そのあり方には若干の違いがある。例文13)は従属文事行が先行詞の属性表現で、その主文事行に対する前時性は主文事行と従属文事行間の論理關係によって決まっているが、例文12)の従属文事行は、主文事行に対して論理的先行關係にあるのみならず、同時に主文事行以外の事行との同時關係をも想定させるのである。しかし、どちらの例文もその前時性が主文事行と従属文事行との論理的關係によって保証されたものである点は共通していると言える。

關係節において前時性を示す imperfecto の中には、名詞節の場合と同様に、主文事行に対する前時性が専ら主文事行以外の事行との同時的關係から認められるものもある。以下の例文を参照されたい。

- 19) Ayer María *vio* a uno de tus compañeros de trabajo que estaba en casa de Juan cuando le visitamos hace una semana. (創作文)

例文19)の主文事行に対する前時性は、imperfecto によって表された事行が cuando 節によって示された事行と同時的關係にあることによって設定されたものである。つまり、ここでの imperfecto の前時性は、それが同時的關係を結ぶ cuando 節の事行自体が主文事行に対して前時的關係を持っていた結果得られたものであり、これはまさに例文18)で見られた imperfecto の前時性と同じ性質のものである。

2.2.2. imperfecto の後時性

表1の例文10)は従属文事行の主文事行に対する後時性を示している。しかし、この後時性はあくまで主文事行に対するものであり、発話時に対してどの

ような時間関係を持っているのかは分からない。このような imperfecto の後時性は名詞節においても確認された。以下の例文を参照されたい。

20) María me dijo que Juan salía de viaje mañana. (創作文)

例文20)の従属文事行は発話時以後を示す副詞の存在により、発話時に対して後時的関係を表していることが分かる。しかし、この例文から発話時以後を示す副詞が削除されると、例文10)と同じく発話時との時間関係は不明になることを考えれば imperfecto は従属文事行の「予定」を表すにすぎないと言ってよかろう。

さて、山村(1994)は、この予定を表す imperfecto を主文事行に対する後時性ではなく同時性を示すものとして扱っている。それは、以下の例文に見られるように、この用法が imperfecto に特有のものではなく、現在形のそれと平行したものと考えたからである。

20)' María me dijo: "Juan sale de viaje mañana."

例文20)は20)'のように書き換えることができる。この時、現在形で表された事行は、例文20)の imperfecto と同じく後時性を示しているように見える。この後時性を示す現在形をどう扱うかはそれ自体大きな問題であるが、山村(1994)は、発話時以後の事行を表す未来形との機能的差異を考慮した結果、この現在形の表す時間関係はあくまで発話時に対する同時性であり、解釈上、後時性を示すように見えるのは、当該事行を表す動詞句の意味的特徴に因る⁽⁸⁾とした。その結果、同じく予定を表す imperfecto もその基準となる過去の事行と同時的關係にあると考え、上記の結論に達したわけである。しかし、関係節内の imperfecto の後時性は常に名詞節のそれと同じ扱いができるのだろうか。実際のデータを見るとそうはいかないことが分かる。関係節の imperfecto の中には次のような例があるからである。

21) Hace una semana vi a uno de tus compañeros de trabajo que estaba ayer en casa de Juan cuando le visitamos. (創作文)

例文21)の imperfecto は主文事行に対して後時的関係を示すと同時に発話時に対して明らかな前時的関係を示している。これは名詞節では観察されなかつ

た現象で注目すべきものである。しかも、この imperfecto は同じ従属文内の cuando 節によって表された事行と同時関係にあるとも考えられる。これらの点からすると、関係節における imperfecto の後時性は名詞節におけるものとはかなり異なった面があると言うことができよう。

2.2.3. imperfecto の同時性

同時性を示す imperfecto には先行詞の属性を表すものとそうでないものがある。先の例文11), 14)を参照されたい。

例文11)の従属文事行が表しているのは主文事行が生起した時のみならず先行詞が常に持っている属性であるが、例文14)の従属文事行が表しているのは主文事行が生起した際の先行詞の同時的状況である。同じ同時性を表す imperfecto にこのような違いが生じるのは文脈解釈上の問題だと考えられる⁹⁾。

ところで、主文事行に対して同時性を示すのは imperfecto だけではない。2.1.3.でも見たように indefinido もそれを示すことがある。では、同じ同時性を示す imperfecto と indefinido の間には何の違いもないのだろうか。ここで同時性の indefinido が出現した例文3), 6), 9)を再度参照されたい。これらを上記の imperfecto の例文と比べると、indefinido が使用された時には従属文事行が先行詞の属性表現とは解釈されないこと、また、従属文事行と主文事行との同時性は各事行間の論理関係によって保証されたものであることが分かる。indefinido のこのような振る舞いは、名詞節で同時性を示した indefinido のそれとまったく同じものと言える。このことから、関係節の indefinido の同時性は、実は主文事行と従属文事行間の論理関係に基づくものであり、indefinido 自体はただ発話時以前に生起した出来事を表しているにすぎないと解釈することができる。indefinido の関係節が先行詞の属性表現とならないのも、まさにこのことに因ると言えるだろう。

3. indefinido と imperfecto の時間関係から見た名詞節と関係節

山村(1994)で得られた名詞節における従属文事行の主文事行に対する時間関

表2 従属文事行の主文事行に対する時間関係

節の種類	従属動詞形式	従属文事行の主文事行に対する時間関係		
名詞節	indefinido	-V,	oV	
	imperfecto	-V,	oV	
関係節	indefinido	-V,	oV,	+V
	imperfecto	-V,	oV,	+V

係と前節で得られた関係文におけるそれとをまとめると表2のようになる。

表2によれば、関係節に出現する indefinido と imperfecto は主文事行に対して後時的関係を示すことができるという点で名詞節のそれとは異なっている。まず、関係節における indefinido の後時性について言えば、それによって示された事行が同時に発話時以前に生起した出来事でもある点は特に重要だと思われる(2.1.2参照)。なぜなら、この indefinido と発話時との時間関係は山村(1994)で設定された O-V という機能そのものだからである。他方、後時性を示す imperfecto は、実は後時性を示す indefinido と同時的關係を持つものに他ならない。つまり、imperfecto の後時性というのは、それが同時的關係を持つ事行自体が主文事行に対して後時的關係を持っている結果得られたものなのである。なお、この時 imperfecto によって表された事行は、indefinido の時と同様、発話時に対して前時的關係にもあり、これも関係節と名詞節の違いを考える上で見過ごすことができない点である。

また、上の表によれば、関係節中の indefinido, imperfecto は主文事行に対して前・後・同時すべての關係を持つことが可能なのが分かるが、その結果、十分な文脈なしには従属文事行と主文事行の時間關係が決定されないことがある。これは、例えば例文5)の主文事行と従属文事行の前後關係をインフォーマントに問うた際、その答えにばらつきが見られた点からも明らかである。

さて、このような関係節の indefinido と imperfecto が示す時間關係は、談話の独立文中に出現する両形式のそれとよく似ている。以下の例文にも見られるように、独立文中の indefinido は前文に対して前時的關係を示すこともあれ

ば(例文22), 後時的関係を示すこともあり(例文23), 問題となる二文の間に論理的同時関係が想定される場合には, 同時的關係も設定することができるからである。

22) A: Hombre, ¡ Cuánto tiempo sin verte ! ¿ Qué tal?

B: ¡ Fatal ! ①Mi mujer me *abandonó*. ②Se *enamoró* de un viejo verde.

②は①に先行。(創作文)

23) Pedí cinco millones de pesetas. ①Ellos me *enviaron* a una persona. ②

Esa persona no me *ofreció* más que unas 300.000 pesetas. ①は②に先

行。(例文2)の書き換え)

上記例文中の *indefinido* の機能と関係節中のそれとの類似性は, 関係節を独立文と見做す際の大きな根拠となると思われる。

4. 結論

以上, 過去の主動詞に従属した関係節に出現する *indefinido* と *imperfecto* の機能を, 同じく過去の主動詞に従属した名詞節に出現するそれらの機能と比較対照しながら考察した。結論として本稿のはじめに提示した各問いに答えてみたい。

まず, 当該関係節に出現する *indefinido*, *imperfecto* の機能は当該名詞節に出現する両形式のそれと異なっているか, という問いについては, 表2からも明らかなように, 異なっていると答えるしかないだろう。では, その差異は何に基づくものなのか。この問いに関して, 本稿は, 問題の機能的差異は両形式が出現する従属節の主文に対する統語構造の違いに起因すると考えたい。つまり, 名詞節はあくまで主動詞の補文として位置付けられ, その結果, そこに出現する *indefinido*, *imperfecto* の機能には制限が加えられるが¹⁰⁾, 関係節は形式上, 主文の従属節ではあるものの, その意味解釈という点からはほとんど独立文のように振る舞い, それが関係節に出現する両形式の時間関係の多様さに繋がったと考えるのである。このように考えるならば, 最後の問いに対する答えも自ずと決まり, 関係節の *indefinido*, *imperfecto* の考察を以て, 山村(1994)

で提起された両形式の機能に修正を加える必要はない、ということになる。

注

* 本稿は日本イスパニヤ学会第40回大会(1994年10月8日、於上智大学)における口頭発表に加筆、修正を加えたものである。

- (1) 動詞句の表す出来事・行為・状態を総称して以下「事行」と呼ぶ。
- (2) Cfr. Rojo (1974) p.73 山村(1994) pp.121-124
- (3) 山村(1994)では作業の手続き上、Pは主動詞として出現した indefinido, imperfecto によって表される過去の事行すべてとした。しかし、このPは必ずしも動詞によって示される必要はない。
- (4) 山村(1994)と同じく主動詞は indefinido と imperfecto に限定した。
- (5) Cfr. 山村(1994)pp. 130-132
- (6) 「創作文」とは実態調査の結果をもとに筆者が作成した例文を示す。これらの例文の文法性はインフォーマントによって確認されている。
- (7) 発表時にも指摘されたように、このb)例の主動詞が imperfecto である点と indefinido の選択の間には何らかの関係があるかもしれない。この関係の解明自体大いに興味のあるところであるが今回は扱わない。
- (8) これは、動詞句の意味内容によっては、発話時以後を示す副詞句を付加しても後時性を示すことができず非文になってしまうものがあるという事実に基づいている。例えば、次の例文はインフォーマント全員によって非文とされたものである。*Vivo en España el año que viene.
- (9) imperfecto には様々な用法があるが、ある imperfecto がどの用法で使用されているかは、それが出現する文脈によって決まると言える。例えば Maria salía de viaje. の imperfecto の解釈は次の例が示すように、付加される副詞の種類によって異なる。De joven Maria salía de viaje todos los veranos. / Maria salía de viaje mañana.
- (10) 2.2.2.でも指摘したように名詞節中の indefinido, imperfecto は主文事行以後かつ発話時以前に生起した事行を表すことができない。

参考文献

- Porto Dapena, J. A. (1989): *Tiempos y formas no personales del verbo*, Arco/Libros S.A., Madrid
- Real Academia Española (1973): *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*
- Rojo, G. (1974): «La temporalidad verbal en español» *Verba* 1, 68-149, Universidade de Santiago de Compostela
- 山村ひろみ(1994):「複文における indefinido と imperfecto——過去の主動詞に従属した名詞節における実態と考察——」*HISPANICA* 38, 120-136

Análisis del pretérito indefinido y el pretérito imperfecto en las oraciones complejas (II)

—En torno a las dos formas que aparecen en las oraciones relativas—

Hiromi YAMAMURA

Este trabajo es una parte del estudio cuyo objeto está en investigar las funciones del pretérito indefinido y el pretérito imperfecto desde el punto de vista de sus comportamientos temporales que se encuentran en las oraciones subordinadas regidas por los verbos principales que están en el pasado. En Yamamura (1994), donde se han averiguado las funciones de dichas formas que aparecen en las oraciones subordinadas *sustantivas*, se ha aclarado que mientras el indefinido tiene función temporal de expresar un *acontecimiento* que está comprobado que ocurrió antes del momento de habla, el imperfecto tiene función temporal de expresar una *situación* que tiene simultaneidad con algún otro evento del pasado, el cual en la mayoría de los casos se expresa con la oración principal. El presente trabajo, basado en el resultado de Yamamura (1994), ha establecido de antemano las siguientes preguntas:

- ① ¿ Hay alguna diferencia o no entre las funciones del indefinido y el imperfecto encontradas en las oraciones subordinadas *sustantivas* y sus funciones encontradas en las oraciones subordinadas *relativas*?
- ② En caso de que haya diferencias, ¿ cuáles son ?
- ③ Y como resultado, ¿ hay que replantear nuevamente las funciones del indefinido y el imperfecto?

Las respuestas se resumen como siguen: Según los datos recogidos, se tiene que decir que existe alguna diferencia entre las funciones del indefinido y el imperfecto que aparecen en las oraciones *sustantivas* y sus funciones encontradas en las oraciones *relativas*. Por ejemplo, el indefinido y el imperfecto de las oraciones *relativas* pueden expresar la posterioridad al evento del pasado expresado por la oración principal, la cual nunca se ha comprobado en las oraciones *sustantivas*. Sin embargo, no por eso llegamos a la conclusión de que sea necesario replantear las funciones de dichas formas verbales porque se ha confirmado un hecho según el que podemos decir que esta diferencia no está basada en la diversidad funcional de estas formas sino en sus estructuras sintácticas.